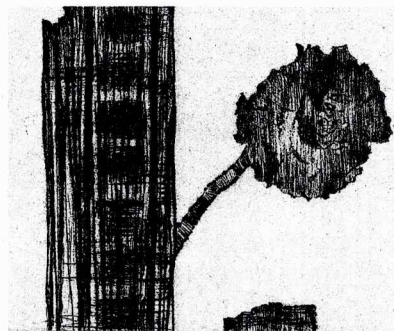


朝日 歌壇 俳壇



〈ランタンキュラスとマンション〉 岩尾恵都子

馬場あき子選

スカートも前髪も恋も短くて青春はすこしだけ寒かった
(相模原市) 榎本 ハナ
未来とはあたたかきものふんわりと抱きしめる
(広島市) 永井 歌歩
十日間連続で息子雪かきす雪のない地へ移住
とは言わず
(新発田市) 岡村 愛子
大雪の天気予報はふるさとのわかれは佐渡見る
妻は水戸見る
(東金市) 山本 寒苦
送り来し寒鱈の身のぶるぶると荒ぶる海を生
き来し厚み
(長井市) 大竹紀美恵
罪ふかき感じたようプラごみの袋あふる
木曜の朝
(仙台市) 沼沢 修
山へ行く我に登山を忌む母の結びくれたる大
きおにぎり
(盛岡市) 渡辺 恭
母焼いて帰りのバスは賑やかなり我は温かき
骨盤を抱く
(藤沢市) 貝崎みちえ
如月の光と風を吸い込みて和布干したるふる
さとの浜
(大和市) 水口 伸生
波寄せて視野の広がる春の海足の裏まで愉快
になりぬ
(厚木市) 北村 純一

【評】第一首の作者の青春は颯爽として涼しげだが、下句には「すこしだけ寒かった」とある。それがいい。少し精神的に満たされないものがあるからこそ、その後の充足がある。第二首は二句までのまとめ方がやさしい。そんな未来でありたい。

佐佐木幸綱選

☆目の前できょんとしたるカモシカにスマホ
を向けるかんじき散歩 (魚沼市) 磯部 剛
朝五時に集落全員の雪かきに出て来るそんな町
に住んでいる (南相馬市) 水野 文緒
葬儀屋のメンバーズカード届きたり消えて亡
くなる順番を待つ (新発田市) 岡村 愛子
押し入れの手品道具が片付かない演り方忘れ
た道具多くて (岡崎市) 三上 正
プーチンを巴投げする男の子パンクシー今義
賊の如し (岐阜市) 原 公子
レジ待ちの列長ければこの本屋消滅せぬと思
えて嬉し (横浜市) 杉本 恭子
あらがわす老いて伐られる堤防の桜並木の植
え替えすむ (横浜市) 田中 廣義
田舎でも客呼ぶ要もつない食器鍋類納屋に
眠れり (亀岡市) 保野 右内
亡き妻の好きな紅茶のダーシリン写真にかか
る湯気も供えて (市川市) をがはまなぶ
大阪の知らんおばちゃんくれたアメ迷わず食
べた南海電車 (和歌山市) 岡田 信也

【評】第一首、散歩の途中で出逢ったカモシカともども「かんじき散歩」に驚く。冬の雪国ならではの一首。第二首、全員が本気で雪に向き合っている集落なのだろう。第三首、「葬儀屋のメンバーズカード」があるのをはじめて知った。

高野公彦選

放射能に追われて避難の一〇〇キロのまじ
めき残る十四年後も (福島市) 澤 正宏
ならい吹く島に戻れば悠然とクジラの群れが
海を横切る (東京都) 三輪 裕子
如月と梅見月そして木の芽月、今月もまた二
月の異称 (太宰府市) 野上伊都子
ふうわりと翼のかたちに鍵盤を離れゆくなり
弾き終えし手は (横浜市) 黒坂 明也
セルスの電話ブロックしたる日はスマホは
ひと日しずかなりけり (熊本市) 寺崎久美子
☆目の前できょんとしたるカモシカにスマホ
を向けるかんじき散歩 (魚沼市) 磯部 剛
マンションの増えたる街に門ごとの鬼やらひ
なく立春迎ふ (東京都) 上田 国博
オランダ語ドイツ語英語で書かれたる蕎麦の
説明若干ちがう (オランダ) 宮沢 洋子
熱心に毛づくろいする猫みたい朝の鏡に支度
する子は (奈良市) 山添 聖子
ハンドルに面腕のせて顎のせて中森明菜聴く
雪渋滞 (富谷市) 川村 空也

【評】1首目、遠くに避難した日々の悲かな気持ちが今も消えない。2首目、作者は三宅島に住み、寒風が吹く日も静かに島の景物を楽しんでいる。3首目、二月は異称が多く、しかもどれも二月の美点を讀んでいる、と詠うユニークな作。

永田和宏選

米国の大統領をわれわれが選べぬこのものど
かしかな (富士市) 村松 敦規
非正規の我の残した引継書だれが怒りに気づ
くだろうか (八千代市) 松田 実樹
戻れるならマイクロビット操って電気泳動
していた頃に (桐生市) 久保塚文字
教え子に何も言えさき卒業アルは要らぬと言
う訳知りてより後 (観音寺市) 篠原 俊則
「もう少しあなたの世話をしたかった」小さ
くつぶやき妻は旅立つ (館林市) 阿部 芳夫
雪解けてトイレの窓が明るいと声聞ませき雪
国の母 (仙台市) 沼沢 修
夕暮れのひかりは人をうつしくしきさびし
くいとおしくする (東京都) 森 小犀
交通調査員から右端のカウンターにて一と
打たれる (枚方市) 久保 哲也
私だけ歳をとったらしいのになじつちゃんば
っちゃん変わらないまま (成田市) かとうゆみ
黒髪を十五センチ切っても気がつかぬ結婚一
十年目の夫よ (酒田市) 富田 光子

【評】村松さん、その発言に世界中が振り回されている大統領を米国民だけで選んでいいのかと。同感。松田さん、引継書に精一杯込めた苦の非正規の怒りに、誰か一人くらい気づいて欲しい。久保塚さん、生化学の実験だろう。私も戻りたい。

うたをよむ 「本当」を見分ける

竹内 亮

短歌を始めた頃に穂村弘の短歌講座を受講した。講座で穂村は「短歌を続けていくと、歌を詠んだときにそれが本当のことかどうかわかるようになる」と話した。短歌は短いテキストだが、本当のことを見分ける詩型でもある。教会の鐘にはあらず速報を告げるチャイムに息を止めたり

森澤真理「地吹雪と輪転機」
森澤は新潟日報の新聞記者だ。この歌の「チャイム」は共同通信が全国の報道機関にニュースを配信する機械の音で、チャイムは特別大きいニュースがあったときに発せられる。記者の誰もが緊張する本場のこの発生を伝える音である。私も二十代に新聞社で勤務していたことがあり、二〇〇〇年にチャイムとともにコンコルドの墜落事故が告げられたのを今も覚えている。

森澤と同様に記者としてキャリアを重ねた松村由利子に「ジャーナリストと謝野晶子」という著作がある。
新しき荷風の筆のものがたり馬券の如く禁ぜられにき 与謝野晶子
晶子の社会詠に記者であり歌人である松村が目を当てている。そして本当のこととは社会的なニュースにとどまらない。ヨークルトに蜜を溶かしてかきまぜる招かれざる火を招かぬように 東直子
東は昨年乳がんを患った。この歌の「招かれざる火」が、がんのことかどうかははっきりしない。しかし、ここには本当のことがありと感ずる。
何が本当かについての争いがあふれる現代において、短歌の重要性は高まるだろうと思う。

第36回日本伝統俳句協会賞 協会賞は同協会監事「群青」同人の坂井諒一さん(42)＝千葉県＝の「花下残影」(30句)に決まった。新人賞は該当なしだった。
林誠司句集「海光」 俳句愛好誌「海光」創刊代表の第3句集。「海吹えよ白さるすべり咲く限り」「江の島へ向かつて水打つてをり」(俳句アトラス・2500円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合もあります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300。短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(添削作品まで)。QRコードから。